

港湾・漁港における大規模地震対策に関する基本方針 一概要版一
 ～緊急物資輸送等のネットワークの構築～

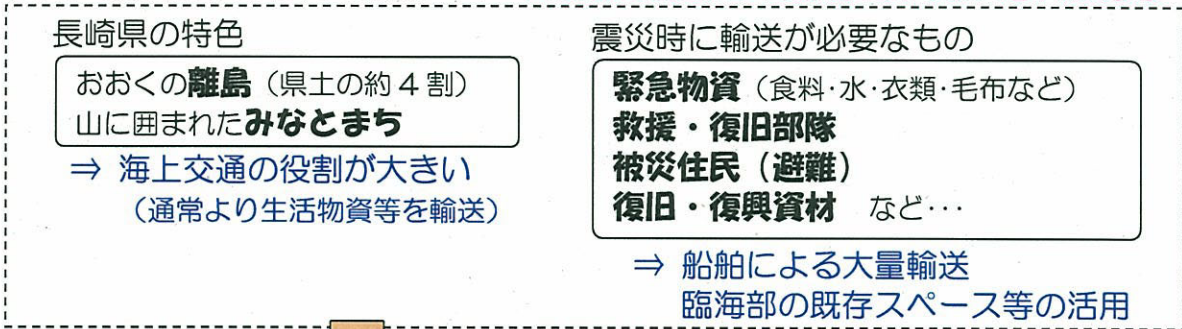
【背景】

福岡県西方沖で発生した地震は、これまで地震空白地域とされていたところで発生しており、福岡県と同様に地震空白地域とされてきた本県も大規模地震が発生する可能性があります。また、本県は多くの離島を有すなど、緊急物資の輸送等において海上輸送に頼らざるを得ない状況です。このため、震災時においても緊急物資の輸送等ができるよう、港の地震対策について、基本的な考え方を定めることとしました。



【港湾・漁港における大規模地震対策の考え方】

港湾・漁港に求められる機能 ⇒ **大規模地震時に十分発揮されない恐れがある**



緊急物資輸送等のネットワークの構築

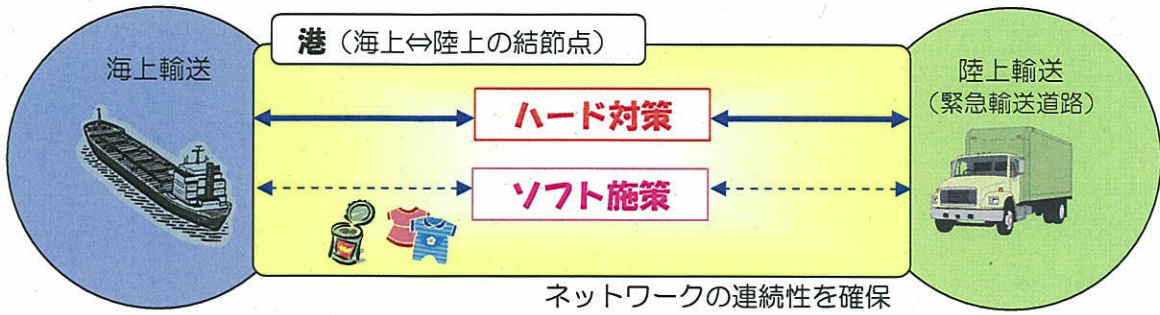
- **ハード対策（防災拠点港の整備）**
 - ・ 耐震性にすぐれた港湾・漁港施設の整備
 - ・ 必要なオープンスペースの確保
- **ソフト施策（ネットワーク形成）**
 - ・ 震災時に活用可能な施設のデータベース化
 - ・ 事前の防災ネットワークの構築
 - ・ 震災後の確認及び情報提供体制等の確立

陸上輸送ネットワーク
 「緊急輸送道路ネットワーク」



福岡県西方沖地震による岸壁の被災状況
 ・ 耐震性にすぐれた岸壁の整備
 ・ 液状化対策

緊急物資輸送等のネットワークの構築イメージ



- 防災拠点港
- 海上輸送
- 緊急輸送道路

